

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 6 日現在

機関番号：36201

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2009 ～ 2011

課題番号：21402034

研究課題名（和文）「アジアにおける精霊信仰の近代的変容-ジェンダー・地域・エスニシティに及ぼす影響」

研究課題名（英文）The Transformation of the Spirit Cults/Animism in Modern Asia- Impacts on Gender, Community and Ethnicity

研究代表者

橋本（関）泰子（HASHIMOTO SEKI HIROKO）四国学院大学・社会学部・教授

研究者番号：80236075

研究成果の概要（和文）：東・東南アジアの人々の世界観に影響を及ぼしてきた「基層文化」特に土着的な信仰（精霊信仰）に着目し、国家宗教やエスニシティ、ナショナリズムとの関係性について実証的な研究を行った。その結果、現代に生きる民衆の「土着信仰」の実践、国家宗教とのシンクレティズムの実態、近代的変容について、新しい知見が得られたと自負している。また、付随的ではあるが、宗教的少数者（この場合、中国におけるイスラーム教徒）の宗教実践や中央権力との関わりについての実態研究という希少な研究成果も得られた。

研究成果の概要（英文）：Focused on the "fundamental culture", which has deeply affected the world view of the people of East and Southeast Asia, especially, on the indigenous (animist) beliefs, we have carried out empirical research on relationship between the state religion, ethnicity, or nationalism and these beliefs. As a result, the new findings were obtained on the practice of "indigenous beliefs" of the people live in this modern era, the reality of religious syncretism with the state religion, and on the modern transformation of "animist beliefs". Adding to this, the rare and also really interesting research data were also obtained on the practice of religion of the religious minority (Chinese Muslim, in this case) and their relationship with the central authority.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	4,800,000	1,440,000	6,240,000
2010年度	5,000,000	1,500,000	6,500,000
2011年度	4,800,000	1,440,000	6,240,000
総計	14,600,000	4,380,000	18,980,000

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：

キーワード：東アジア・東南アジア・精霊信仰・シンクレティズム

## 1. 研究開始当初の背景

研究代表者および分担者の一部は、平成15年度～17年度科学研究費補助金によるプロジェクト「アジア家族の変容と『伝統の創造』に関する比較研究-日本・韓国・中国・タイ-

（基盤研究（B）（1））により、「家族圏」をキーワードに、「儒家家族」ではない、東アジアにおける「もう一つの家族文化」を明らかにしようと試み、日本を含むアジア諸国において、近代国家形成期にどのように変化

し、後年、自らの家族文化を振り返るに、「近代家族」「近代的男女規範」という言説を有するようになったか、という点について、問題提起するに至った。しかしここでは「家族文化」の共有について検証することができたが、しかし、「なぜ家族文化が共有されるのか」という点については、論じ切れていない。この点について論じるためには、各地域の「基層文化」、特に人々の世界観に影響を及ぼし、日常生活を規定した土着的な信仰、精霊信仰をも重要な規定要因として考察の対象にする必要があるという結論に至った。

## 2. 研究の目的

日本を含む東・東南アジア6カ国における精霊信仰、特に祖霊信仰／先祖崇拜に焦点をあて、その外来宗教受容プロセスに及ぼす影響と再編、さらに近代的エスニック・アイデンティティへの変容／萌芽について比較研究し、記述することを目指す。

## 3. 研究の方法

本研究が調査対象にする日本（南九州もしくは沖縄、および関西地方）、タイ（バンコク周辺およびタイ南部）、フィリピン（ルソン島等）、ミャンマー、中国、インド（ケララ州周辺）の6カ国におけるインフォーマントへのインタビュー調査を中心とする。

## 4. 研究成果

研究の蓄積がまだ非常に少ない分野であるため、分担者の問題関心が多岐に及び、多面的な視点から問題提起がなされたと自負する。新たに提起された視点を大まかに分類すると以下になる。 (1) 祈祷師・シャーマンの系譜とその社会的役割（北原、タンタンアウン） (2) 世界宗教（仏教、イスラム教、キリスト教）と土着（精霊）信仰、エスニシティとの関わり（橋本、野津、長坂）、 (3) 政治的・文化的・宗教的少数者の宗教実践、中央権力との関わり（首藤）、 (4) 精霊信仰の「近代化」もしくは「近代的変容」（橋本、タンタンアウン）以上の視点から、それぞれが多くの研究論文の発表や研究報告を行った。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

### 【著書・論文】

橋本（関）泰子、2012 「タイ・モーン族における仏教と精霊信仰の実践がエスニック・アイデンティティにおよぼす影響」、『社会学雑誌』29、78-81頁。

野津幸治、2012、「タイの精霊『ピー』について」『Clear Sky』10、20-21頁。

長坂格、2009、『国境を越えるフィリピン-村人の民族誌-』明石書店、450頁。

### 【口頭発表】

橋本（関）泰子「南タイにおける船神信仰について」「怪異・妖怪文化の伝統と創造-研究のさらなる飛躍に向けて-」於・国際日本文化研究センター、2011年3月12日。

首藤明和、「現代中国回族の移動とネットワークからみえてくるもの-雲南と山東の予備調査から」2010年度第1回アジア・ムスリム研究会、於・早稲田大学、2010年12月4日。

首藤明和・鄭南、「中国の回族ムスリムと地域社会——モスクの現地調査に基づいて」第83回日本社会学会大会、於・名古屋大学、2010年11月6日。

〔雑誌論文〕（計10件）

〔学会発表〕（計12件）

〔図書〕（計8件）（ただし、共著も含める。）

：〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

橋本（関）泰子 (HASHIMOTO SEKI HIROKO)  
四国学院大学社会学部・教授  
研究者番号：80236075

### (2) 研究分担者

北原 淳 (KITAHARA ATSUSHI)  
龍谷大学経済学部・教授  
研究者番号：30107916

犬塚 協太 (INUZUKA KYOTA)  
静岡県立大学国際関係学部・教授  
研究者番号：00232520  
野津 幸治 (NOZU KOJI)  
天理大学国際文化学部・准教授  
研究者番号：40208369  
森本 一彦 (MORIMOTO KAZUHIKO)  
京都大学文学研究科・准教授  
研究者番号：20536578  
竹本 達也 (TAKEMOTO TATSUYA)  
四国学院大学社会学部・教授  
研究者番号：70309706  
長坂 格 (NAGASAKA ITARU)  
広島大学大学院総合科学研究科・准教授  
研究者番号：60314449  
首藤 明和 (SHUTO TOSHIKAZU)  
兵庫教育大学学校教育研究科・准教授  
研究者番号：60346294  
奥井 亜沙子 (OKUI ASAKO)  
京都女子大学現代社会学部・講師  
研究者番号：30107916  
橋本 卓 (HASHIMOTO TAKASHI)  
同志社大学法学部・教授  
研究者番号：00208448

\*海外研究協力者は以下の3名である。  
Dr. Pacharawalai Wongboonsin (タイ国 チ  
ュラーロンコーン大学 人口研究所 教  
授)

Dr. Than Than Aung (ミャンマー国 ヤンゴ  
ン経済大学 講師)

Dr. M. S. Jayakumar (インド国 コー  
チン科学技術大学 講師)